

キャン ドウ

CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)会報 2024年12月[第108号]



活動の方向性 **父母リーダーによる学習会の開催**

永岡 宏昌

ブランチや便り **食料危機のなか雨期が始まりました**

永岡 宏昌

報告 **マラウイでの活動—2024年9月~11月—**

父母リーダーへのライフスキル教育研修(全12回)

事務局から

写真は、父母リーダーによる学校活動—ナゾンベ教育区チタオタオ校での机・いす(一体型)の修理、

父母リーダーによる学習会の開催

代表理事 永岡 宏昌

2023年12月からマラウイ共和国パロンベ県において、JICA 草の根技術協力事業として実施している「ライフスキル教育を基盤とした子どもの教育と健康・安全を保障する活動形成事業」(4教育区を対象として3年間)では、2つの活動を進めています。ひとつは前号で紹介した、研修を修了した父母リーダーを中心に、保護者が施設の改善などに取り組む学校活動です。

並行して行っているのが、父母リーダーによる学習会の開催への協力です。研修で理解を深めた、子ども教育・健康・安全に関する課題の理解と対処法を、ライフスキル教科書を活用して一般保護者や村人に分かりやすく伝え、課題解決につなげていくことを目指しています。

父母リーダーは、学習会を開催するために、保護者対象であれば校長や学校運営委員会議長に、村人対象であればチーフに開催を提案します。対象者を集めてもらう場合と、実施される保護者会議や村人集会の中で時間をもらう場合があります。

5月末に最初の学習会が開催されましたが、11月まで、クランベ教育区とナゾンベ教育区の全23校のうち6校では行なわれていない状況です。開催した経験のある父母リーダーも、繰り返し行なうことに困難を抱えてい

るようです。このため、当会は各校を訪問して、父母リーダーと学校関係者に抱えている問題を聞き、解決方法を考えました。

父母リーダーが研修手順書を見ながら発表し、保護者・村人は配布資料を見ながら聞く、という学習会の形は評価されていました。リーダーは、適切な質問があるので、参加者の理解が進んでいると実感し、配布資料を家に持ち帰って、読み返している人もいるとのこと。一方、学習会ではジュースなど副次的利益の提供がないことに不満の声が上がったり、ざわついて、聞いてくれなくなることもあったり、と報告されました。その際にチーフから適切な発言があって場が収まったこと。副次的利益への期待は広くあるので、みんなに納得してもらうのは難しいが、意識が高そうな人に丁寧に説明して理解を得ることが重要、という発言もありました。当会と同じ視点で副次的利益の期待への対処を考え、取り組んでいることを嬉しく思いました。

また、突然招集されたチーフによる集会の中で、短い時間の発表機会が提案されることや、学校の保護者会議の中での発表時間が短かく、上手く対応できていないという状況の説明がありました。当会では、10分程度で要点が発表できる手順書を作成する意義があるのではないか、と考えているところです。

ボランティア便り

食糧危機のなか雨期が始まりました

永岡 宏昌

2024年3月、マラウイ政府は、エルニーニョ現象に起因する、干ばつによる深刻な食糧危機について、国家災害宣言を行ない、国際社会に協力を呼びかけました。それは、現在まで続いています。

当会が住民参加でライフスキル事業を実施している南部のパロンベ県でも、飢え(huger)の状況が分かります。学校関係者やチーフ、父母リーダー、さらに一般保護者や村人に参加をよびかけている会議や活動に集まってもらうのが、最近、難しくなっているのです。当会からだけではなく、父母リーダーからのよびかけでも同様です。人々は、飢えが深刻なので、月曜から金曜まで食料を探して忙しくしていて、当会の活動に集まるのが難しい、という説明を多く聞きました。

国際援助機関やNGO、政府のプログラムなど、さまざまな形で援助が行なわれています。道路の補修など、公共作業に住民が参加して、記録してもらうことで、毎月、封筒に入った現金をもらえる事業。作業ごとに食料や食料油がもらえる事業。事前に登録することで、緊急食糧が配給される事業—さまざまな事業が展開されています。

食糧危機のなかで、食料確保に忙しい住民に、無償のボランティアで副次的利益もな

い当会の事業にどうすれば参加してもらえるか。父母リーダーや学校関係者からも意見が出始めています。住民が食料探しに忙しいのは週日なので、当会の業務では休日としている土曜に当会スタッフも参加して、保護者会議や学習会を開催するとよい。公共作業を実施している場所に行き、作業の合間に父母リーダーが短い学習会を実施する一。

11月下旬、雨が降り始めました。次の収穫に向けて、メイズやタバコの作付けが忙しくなっています。政府が毎年実施している、補助金で安くメイズ種子や肥料が買える事業があります。その事業では、肥料の供給が降雨のタイミングに間に合わないことが多いのです。そこで、政府事業ほどではないけれども、安く買えるNGOによる事業などから、うまく入手しようと住民は工夫しているようです。

父母リーダーや学校関係者から、農作業が忙しくなると、保護者が子どもを学校に通わずに農作業に連れて行くので、子どもの権利や保護について教えたいとの意見もありました。また、食糧危機だからこそ、子どもの成長と栄養について、保護者が理解を深めてほしいとの思いもあります。

■パロンベ県—ライフスキル教育を基盤とした子どもの教育と健康・安全を保障する活動形成

2023年12月に開始。9教育区のうち4教育区を対象として事業期間は3年。前半は、ナゾンベ教育区(11校)とクランベ教育区(12校)で活動。8月までに2教育区での父母リーダーへのライフスキル教育研修(全12回)が完了しました。



□9月

□父母リーダーによる学校活動: ナゾンベ教育区の3校で活動計画を実践し、完了(教室の床補修や斜路作り)。

□父母リーダーによる地域活動の形成—村人向け学習会の開催: ナゾンベ教育区の2校の通学圏の2村で開催されました。

□10月

□父母リーダーによる学校活動—行動計画作りと覚書締結: クランベ教育区の2校で締結しました。

□父母リーダーによる保護者向け学習会の開催: クランベ教育区の1校のみで開催されました。

□父母リーダーによる学校活動: ナゾンベ教育区の2校で活動計画を実践。1校で完了(教室の床補修)。

□教員研修のためのベースライン調査・教員との合意形成—ライフスキル授業を観察、生徒および教員への聞き取り: ナゾンベ教育区の3校で実施。

□11月

□父母リーダーによる学習会の開催
学習会の開催が低調なため、各校での父母リーダー、学校関係者、チーフとのフォローアップ会議を始め、4校で実施しました。

□父母リーダーによる学校活動—行動計画作りと覚書締結: クランベ教育区の4校で締結。

□父母リーダーによる学校活動: ナゾンベ教育区の1校で完了しました(教室の床補修)、ナゾンベ教育区の4校で継続、クランベ教育区の2校で実施。

□教員研修のためのベースライン調査・教員との合意形成: ナゾンベ教育区の2校、ナゾンベ教育区の4校で実施。ナゾンベ教育区では全11校で完了(教員への集合研修に進みます)。

父母リーダーへのライフスキル教育研修(全12回)

第1回 ライフスキル教育: 問題解決と意思決定/HIV/エイズに関して効果のある伝え方



第2回 水・衛生管理・衛生教育: 衛生管理/マラリア



第3回 栄養: 食べ物と栄養/栄養不足による疾患

第4回 子どもの発達: 思春期の身体と精神の変化/仲間による指導や助言と相談(カウンセリング)



第5回 子どもの保護<1>: セクシャル・ハラスメントと虐待に効果のある伝え方/有害な慣習/セクシャル・ハラスメントと虐待

第6回 子どもの保護<2>: 人権と責任/セクシャル・ハラスメントと虐待

第7回 意思決定と問題解決



第8回 エイズ情報: HIV/エイズと生きる人たちの権利/効果のある伝え方/基礎



第9回 エイズの予防と治療: 指導や助言と相談(カウンセリング)/有害な慣習

第10回 社会の中の脆弱な人々: 孤児と脆弱な子どもたち



第11回 性と生殖に関する健康: 身体の成長と精神の発達/HIV/エイズを含めた性感染症/性感染症について



第12回 災害予防: 南部アフリカの天災

事務局から

報告

◇組織

○10月26日、Zoomを利用したオンラインで、2024年度第4回理事会を開催。マラウイの監査法人による会計監査後の2023年度ブランドタイヤ事務所会計報告を承認。2024年度1月～9月の活動報告と会計報告、10月～12月の活動予定を審議しました。

◇国内活動

○9月28日・29日、新宿住友ビル 三角広場他をリアル会場として開催された、グローバルフェスタ JAPAN2024 にブース出展。パネル展示とパソコンの画像でライフスキル教育の活動を紹介しました。



○11月8日、CanDo 報告会「ライフスキル教育を基盤とした学校活動」を JICA 地球ひろばとオンラインで開催。事業責任者を兼任する代表理事 永岡宏昌が報告しました。

人の動き

～2024年12月12日

○11月12日、永岡がマラウイに出張。

お知らせ

■ 12月27日(金)17:00～19:00

準スタッフ募集説明会をオンラインで開催

2025年2月派遣の準スタッフの募集期間に、当会では初めてオンラインで募集説明会を開きます。申し込みは Peatix から12月25日までに。リンクは、<https://x.gd/sXrgi>。

■ 2025年2月6日(木)～17日(月)

台東区地域活動団体パネル展に出展

会場は、台東区生涯学習センター1階アトリウム(最寄り駅は東京メトロ入谷駅)。

■次号は、2025年3月に発行の予定です。

CanDo アフリカ [第108号]

2024年12月22日発行

発行人: 永岡宏昌

編集人: 佐久間典子

発行: 特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)
〒110-0001 東京都台東区谷中2-9-14 第2森川ビル B号室

電話: 03-3822-1041

電子メール: tokyo@cando.or.jp

ウェブサイト: <https://www.cando.or.jp/>

facebook page: <http://www.facebook.com/candoafrica>

郵便振替: 口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会